

安全装備品と消防活動



愛媛県上島町消防団

1 はじめに

上島町は、愛媛県の北東部、広島県との境に位置し、瀬戸内海のほぼ中央に浮かぶ、上島諸島と魚島群島から構成されています。周囲は、瀬戸内海国立公園区域に囲まれ、風光明媚な瀬戸の景勝拠点地です。面積は30.38km²、平均気温は15～16℃、年間降雨量は約1,000ml前後で、瀬戸内海特有の多照寡雨の温暖な気候に恵まれています。平成16年10月1日に弓削町・生名村・岩城村・魚島村の4ヵ町村が平成の大合併により、現在の上島町となりました。

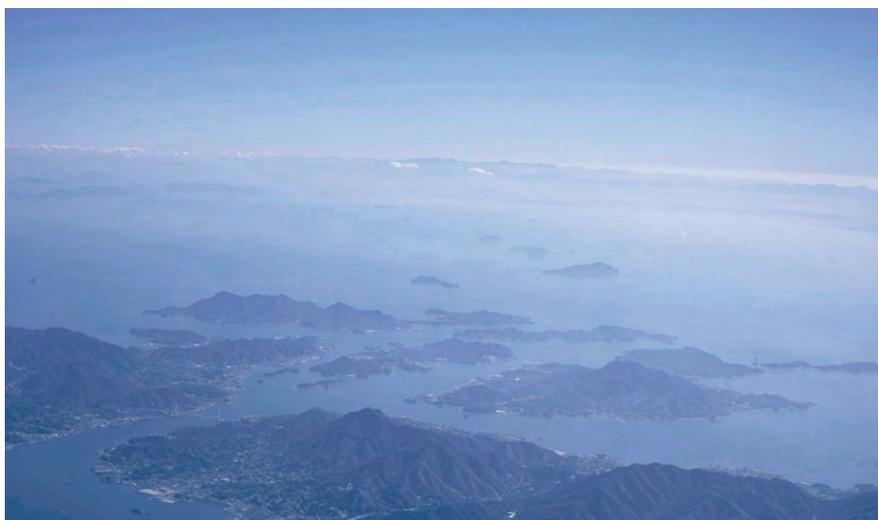
本町は島ならではの環境と恵まれた自然を生かし、アイランドテラピー、グリーン・ブルーツーリズムを推進しています。そして、もてなしの心と歓迎の機運づくりに努め、地域全体で参加・体験・滞在型の観光交流エリアをつくっています。

本町は、瀬戸内海でも有数の好漁場を保有し

ています。特に太刀魚釣りや蛸つぼ漁などが盛んで漁業は主要産業です。しかし近年、漁獲量が減少しているため、稚魚の中間育成と放流、海苔や車えびの養殖業など「獲る漁業」から「つくり育てる漁業」への転換を図っています。また、農業は、瀬戸内海の温暖な気候を生かした柑橘類の栽培が中心で、急斜面の段々畑も多く兼業農家や小規模農家が大半です。

2 消防団の組織概要

上島町が発足すると共にそれまでの4町村の消防団についても統合し「上島町消防団」の名称のもと、1つの消防団となり、従来の各町村の消防団はそれぞれ「方面隊」として組織され、4方面隊、11分団となりました。消防団員定数は、旧4町村の合計定数が359名でありましたが、上島町消防団になって定数390名と31名の増員となり、役場消防団員の確保と地元民間事



空から見た愛媛県上島町

業主の理解と協力が不可欠であると考えております。

消防団員数は平成22年4月1日現在377名（うち、女性団員33名）で組織体制は消防団長1名、副団長（方面隊長）4名、分団長11名、副分団長11名、部長18名、班長40名、団員292名となっております。これに消防ポンプ自動車4台、消防団救助資機材搭載型車両1台、消防ポンプ付積載車11台、小型動力ポンプ7台を配備しています。

上島町消防団としての活動内容は、上島町消防団の統一訓練として年2回、春と秋の全国火災予防運動中の日曜日に訓練をする事とし、各



訓練の様子



統一訓練

方面隊がパレードや一斉放水等を行っています。夏には、班長以上の幹部及び新入団員を対象に夏季幹部講習会を行い、各方面隊の幹部が集まりコミュニケーションを図っております。12月26日から30日の間、年末警戒を行い、消防車両で巡回する地区もありますが、ほとんどの地区は狭い路地が多いことから、消防車は使用せず徒歩で巡回しています。本町ではあの「カチカチ」という拍子木の音は、年末の風物詩になっています。また各方面隊においては、月1回の機械器具点検、消火栓点検等を行っています。

3 安全装備品等助成を利用するに至った経緯

先に紹介したとおり、上島町は町村合併を経て誕生し、そして旧町村の団員・消防資機材を引き継ぎ、上島町消防団が誕生しました。各方面隊の資機材を調査すると夜間の活動、風水害に対する装備がほとんど整備されていませんでした。どのように整備をするか悩んでいる時に県からの照会文書により消防基金の安全装備品整備等助成事業を知りました。助成事業を申請するに当たり、幹部会を開いて整備していく安全装備品を事業メニューの中から優先順位を付けて決めていきました。

平成18年度に投光器一式（発電機付）4台、平成19年度に救命胴衣155着、平成20年度に携帯用投光器257個、平成21年度に反射チョッキ170着を整備しました。このように平成18年度以降は、消防基金の安全装備品整備等助成事業を活用し安全装備品を整備しています。

投光器は、夜間の現場活動や夜間に実施することが多い消防操法訓練にも活用しています。



反射チョッキ



携帯用投光器

携帯用投光器、反射チョッキは、毎年年末に行っている年末夜警の時の巡視に活用しています。救命胴衣は、台風時のパトロールに活用しています。上島町は、海に囲まれているため救命胴衣を着用することにより安全なパトロール、水防活動が出来るようになりました。

4 今後の取り組みについて

平成18年度以降、夜間の活動、風水害に対する装備を整備してきましたが、手袋については、現在、自分達で購入した軍手等を使用しているので、今後は、より安全に作業するためにケブラー手袋を整備したいと考えています。

また、火災現場等において通信手段が個人の携帯電話しかないので消防基金と相談をして携帯用無線機（トランシーバー）、「夜間の災害現場において、携帯用投光器を手に持っていないと作業が出来ない。」と、という意見が多いのでヘルメットへ装着出来る携帯用投光器（ヘッドランプ）など、消防基金の安全装備品整備等助成事業を活用し整備していきたいと思っています。

また、消防基金が実施している「S-KYT研修」「消防団員安全管理セミナー」「消防団員健康セミナー」などの研修を定期的に受講し、事故防止と安全確認の意識を高め、地域の安全・安心を守る消防団員としての意識の高揚を図っていきたく考えています。



災害に出動する消防団